

## 令和2年度第1回千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会議事録

1 日 時 令和2年8月3日（月）15時～16時40分

2 会 場 千葉市議会（千葉市役所議会棟）第5委員会室

### 3 出席者

(1) 委 員 岩切 裕委員（会長）、鶴見 泰委員（副会長）、小栗 一徳委員、  
田原 洋子委員、松寄 洋子委員

(2) 事務局 宮葉こども企画課長、栢見幼保支援課長

### 4 議 題

(1) 指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について

ア 「千葉市子ども交流館」について

イ 「千葉市子育て支援館」について

(2) 今後の予定について

### 5 議事の概要

(1) 指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について

ア 「千葉市子ども交流館」について

令和元年度の「指定管理者評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

イ 「千葉市子育て支援館」について

令和元年度の「指定管理者評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

(2) 今後の予定について

事務局より、議事録と評価シートの公表について説明を行った。

### 6 会議経過

○事務局 それでは、定刻となりましたので、これより令和2年度第1回こども未来局指定管理者選定評価委員会を開会させていただきます。

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、こども企画課の岩崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員の皆様全員にご出席いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10条第2項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告いたします。また、当会議は公開になりますので、重ねてご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。本日、机上には次第、席次表をお配りしております。また、事前に青いファイルの配付資料と緑色のファイルの参考資料をお送りさせていただいております。不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、適宜窓開け等による換気をさせていただきますので、ご了承いただければと思います。

それでは、開会に当たりまして、こども企画課長の宮葉よりご挨拶を申し上げます。

**○宮葉こども企画課長** こども企画課長の宮葉でございます。本日は、本来であればこども未来部長がご挨拶すべきところでございますけれども、所用によりまして欠席させていただいておりますので、代わりに私のほうから一言ご挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中、当委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、平素より市政各般にわたりまして多大なるご支援、ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして改めてお礼申し上げます。

本日の会議でございますけれども、平成29年度から3期目の指定管理となっております「子ども交流館」と「子育て支援館」の令和元年度の管理運営状況につきまして、市による評価を行いましたので、その評価につきましてご審議をお願いするものでございます。

委員の皆様には、施設の管理、運営、あるいは財務状況等につきまして、専門的なお立場から忌憚のないご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いいいたします。

簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

**○事務局** 傍聴にあたりましては、お手元の「傍聴要領」に記載された事項をお守りいただきますようお願いいたします。

それでは、議事進行につきまして、岩切会長、よろしくお願いいいたします。

**○岩切会長** 皆さん、こんにちは。よろしくお願いいいたします。それでは、次第に従いまして議事を進行してまいります。どうぞよろしくお願いいいたします。

最初に議題（1）の「指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価について」に入らせていただきます。まず、千葉市子ども交流館の年度評価についてご審議いただきます。事務局よりご説明をお願いいたします。

**○宮葉こども企画課長** こども企画課の宮葉でございます。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。

それでは、子ども交流館の指定管理者年度評価シートにつきましてご説明させていただきます。配付しております、資料2-2「令和元年度 指定管理者年度評価シート」をご覧ください。

まず、1の「公の施設の基本情報」でございます。施設名称は、「千葉市子ども交流館」。条例上の設置目的は、「子どもの健全な育成と交流を図る」としております。

次に、2の「指定管理者の基本情報」でございます。指定管理者は、千葉ミライ子

どもプロジェクト事業体で、代表団体はアクティオ株式会社、構成団体はテルウェル東日本株式会社でございます。指定期間は、平成29年4月1日から令和4年3月31日までとなっております。今回は指定期間の3回目の年度評価となります。

次に、3の「管理運営の成果・実績」でございます。(1)成果指標に係る数値目標の達成状況の「来館者数」につきましては、指定管理者の設定した令和元年度の数値目標15万5,381人に対しまして、実績は13万8,122人で、達成率は88.9%となっております。

来館者数は、新型コロナウイルスの影響で2月29日から施設が臨時休館していたことが影響しまして、前年度比1万5,321人の減で、目標を達成することができませんでした。その下の「新規登録者数」につきましては、指定管理者の設定した令和元年度の数値目標1万5,484人に対しまして、実績は1万1,788人で、達成率は76.1%となっております。新規登録者数に関しましても、前年度比748人の減で、来館者数と同様に目標を達成することができませんでした。

なお、市の設定した数値目標とそれに対する達成率につきましては、それぞれの下段に括弧書きで記載しております。市の設定した数値目標はいずれも5年累計でございますが、年平均で算出いたしますと、来館者数は数値目標13万7,800人に対し達成率は100.2%、新規登録者数は数値目標1万4,800人に対し、達成率は79.6%となっております。

次に、(2)その他利用状況を示す指標でございます。これは指定管理者が独自に設定した数値目標でございますが、子ども交流館の認知度の向上と新規登録者数の増を目的といたしまして、令和元年度は出張講座を10回実施することとしておりましたが、実施回数は11回で、目標を上回ることができました。

続きまして、4の「収支状況」でございます。まず、3ページをご覧ください。一番下の(3)収支状況でございますが、事業を大きく、指定管理の委託業務としての必須業務と自主事業の2つに分けた後、それぞれの収支を合算した総収入と総支出を記載しております。必須業務の収支は125万1,000円の赤字、自主事業の収支は15万4,000円の黒字となり、総収支といたしましては109万7,000円の赤字となりました。

それでは、必須業務から詳細をご説明いたします。恐れ入りますが、2ページにお戻りいただきたいと思っております。(1)必須業務収支状況の「ア 収入」をご覧ください。指定管理料、その他収入の合計額は9,892万6,000円の年度計画に対しまして、9,892万4,000円の実績となりました。年度計画と実績の差異の要因は、イベントの参加費収入の減によるものでございます。

続きまして、「イ 支出」をご覧ください。まずは人件費でございますが、年度計画と実績の差異は166万7,000円の増となっております。主な要因といたしましては、昇給による人件費の増によるものでございます。

次に、事務費でございますが、年度計画と実績の差異は21万円の減となっております。主な要因といたしましては、新型コロナウイルスの影響による臨時休館に伴う事業費や光熱水費の減によるものでございます。

次に、管理費でございますが、年度計画と実績の差異は4万7,000円の減となっております。なお、計画上の管理費は全て備品購入費に当たります。

次に、委託費でございます。年度計画と実績の差異は16万1,000円の減となっております。主な要因といたしましては、ファイアウォール委託費の減によるものでございます。

次に、間接費でございますが、年度計画、実績ともに813万9,000円となっております。

最後に、支出の合計でございますが、提案、年度計画の9,892万6,000円に対しまして、実績が1億17万5,000円で、124万9,000円の増となっております。

続きまして、3ページをご覧ください。一番上の間接費の配賦基準・算定根拠でございます。指定管理事業の実施に当たっては、現場と本社が一体となって業務を遂行しており、本社では人事労務、事務・経理、施設担当社員の配置などの現場管理を行っております。これらの現場管理に係る経費は、本社における営業費に該当し、代表団体における直近3か年の売上高に対する営業費の平均比率は約11.3%となっております。

指定管理業務の本社費の算定に当たりましては、本社管理経費を除く支出総額に対しまして、本社の営業費比率の実績を基に11.3%相当を計上したい意向があるようでございますけれども、子ども交流館においてはこれまで赤字決算が続いていたこともありまして、当施設の運営を安定させるために、その比率を約8%まで引き下げ、計上している状況でございます。

次に、自主事業でございます。(2)自主事業収支状況をご覧ください。自主事業は必須業務には含まれていないものの、指定管理者が施設の設置目的を果たすために必要であると考えた事業を実施しており、乳幼児向けのプログラムやキッズダンススクール、中高生を対象としたミュージックレッスンなどを開催しております。自主事業の実績につきましては、収入が225万円、支出が209万6,000円で、15万4,000円の黒字となっております。収支の詳細につきましては、以上でございます。

続きまして、4ページをお願いいたします。「5 管理運営状況の評価」でございます。まず、(1)管理運営による成果・実績でございますが、評価項目ごとに市の設定した数値目標に対する達成状況を点線枠内の基準により5段階で評価したものでございます。

1ページ目で説明しましたとおり、来館者数につきましては市の設定した数値目標に対する達成率が100.2%であったため、C評価。新規登録者数につきましては、市の設定した数値目標に対する達成率が79.6%であったため、D評価としております。ただし、新型コロナウイルスの影響による臨時休館期間を考慮いたしまして、2月、3月の来館者数及び新規登録者数を平成30年度と同数だと仮定いたしますと、来館者数は15万3,036人、新規登録者数は1万2,942人となり、来館者数の評価はCで変わらないものの、新規登録者数の評価に関しましては、今回の選定評価委員会のご意見を踏まえて評価をCへと変更することも可能となっております。

次に、(2)市の施設管理経費縮減への寄与でございます。こちらは、選定時の提案

額に対する指定管理料実績額の削減率を評価するものでございますが、提案額と実績額が同額でございましたので、削減率0%でC評価としております。

次に、(3) 管理運営の履行状況でございます。この項目につきましては、指定管理者の自己評価と市の評価として、それぞれ評価づけをしております。

まず、市の評価の方法につきましてご説明いたします。配付資料の2-4をご覧ください。

市では、月次報告書の確認や面談、現地確認等によるモニタリングを行い、その結果に基づきまして、年2回、モニタリングレポートを作成しております。このモニタリングレポートには、管理運営状況の確認として、それぞれのモニタリング項目ごとに左の欄から順に、市が求める管理運営の基準の内容、指定管理者の提案時のプラス評価事項、基準に対する市の確認方法及び確認結果を記載しております。

例といたしまして、一番上のモニタリング項目1「市民の平等利用の確保」をご覧くださいますと、その右側の欄に市の求める基準の内容といたしまして、「公の施設、指定管理者制度に関する理解、使用許可等に関する理解等」との記載があります。

次に、その右側の欄にプラス評価といたしまして、指定管理者選定の際に市が求める基準を上回り、かつ市民サービスの向上に資するものと判断される提案があった場合には、欄の左側に◎が入り、その右側にその提案内容が記載されます。なお、子ども交流館のモニタリングレポートには、この該当はございません。

次に、その右側の欄に、確認方法として「管理運営業務マニュアル確認、ヒアリング」との記載があります。

最後に、一番右側の欄に、確認結果として市の確認の結果、市の求める基準に対しておおむね基準どおりに管理運営が行われていたということで、○と記載しております。

なお、提案時のプラス評価が◎の場合には、指定管理者の提案に対して、その結果を確認することとなります。また、この確認の結果、市の求める基準や指定管理者の提案よりもさらに上回る管理運営が行われていた場合には、◎の評価がつくことになりますし、基準や提案どおりに管理運営が行われていなかった場合には、×の評価がつくことになります。このように各項目につきまして、提案時のプラス評価の有無、確認結果の評価づけを行っております。

子ども交流館におきましては、年2回のモニタリングを実施いたしましたが、いずれの項目につきましても提案時のプラス評価はなかったものの、確認結果につきましては一部基準を上回る管理運営が行われているという◎の評価をつけている項目がございます。

続きまして、資料4「評価の目安」をご覧ください。こちらが管理運営の履行状況の評価するに当たりまして、先ほどご説明いたしましたモニタリング結果から、それぞれの項目を点数化する目安を示したものでございます。資料2-4も併せてご覧いただければと思います。

点数の説明をいたしますと、プラス評価の欄に◎がついていて、かつ確認結果が提

案をさらに上回る管理運営が行われていたときの◎がついた場合は、最も良い点数の+2.5に、プラス評価の欄が空欄であり、確認結果に◎がついた場合は、点数が+2に、プラス評価の欄に◎がついていて、確認結果がおおむねの提案どおりに管理運営が行われていたときの○がついた場合には、点数が+1に、プラス評価の欄が空欄で、確認結果が○であった場合は、点数は±0に、確認結果が基準や提案どおりに管理運営が行われていなかったときの×がついた場合は、点数が-2になるものでございます。

なお、年間において複数のモニタリング結果が異なる場合は、点数を平均することとなっております。

続きまして、資料2-3をご覧ください。こちらは、ただいまご説明いたしました評価の点数化をそれぞれの項目で行い、その数値を用いて年度評価シートの大項目ごとに平均値を算出する表となっております。子ども交流館につきましては、いずれの項目も提案時のプラス評価はなく、確認結果は一部◎となっておりますが、平均値を算出いたしますと、各項目の評価平均は0.00と0.33の2通りとなっております。

お手数ですが、資料4にお戻りください。資料4の下段の②、平均値の算出の下の表をご覧ください。先ほどのようにそれぞれの項目の評価を点数化した上で、年度評価シートの大項目ごとに平均値を算出いたします。算出したそれぞれの平均値が年度評価シートのAからEまでの5段階評価のいずれに該当するかを判断する目安が、この表ということになっております。

子ども交流館につきましては、大項目が0.00と0.33の2通りとなりましたから、この表に当てはめると、上から3番目の「平均値が-0.5を超え0.5未満」に該当し、全てCの評価ということになります。これが目安に基づき算出した評価となります。

それでは、また恐れ入りますが、資料2-2の4ページにお戻りいただければと思います。(3)管理運営の履行状況でございますが、こちらは指定管理者にも自己評価を記載していただいております。自己評価と市の評価が異なる項目につきまして、簡単にご説明させていただきます。

5ページをご覧ください。(4)施設の事業の効果的な実施のうち、「①子どもの健全な遊びと居場所の提供」から「④子どもの遊びと居場所づくりに関する情報の収集及び提供」まででございますが、自己評価がBとなっております。これは、アトリウムでのイベントや子ども食堂を活性化させ、子どもの居場所の拡充を図ったことや、未就学児の利用促進として保育園の招待事業や運動会、遠足等を積極的に受け入れてきたことからB評価とされたものでございます。

次に、その下の「⑤こどもの参画推進」から「⑦その他市の子ども施策への対応」までにつきましても、自己評価がBとなっております。これは、中学生の職場体験の受入れを積極的に行い、子どもが社会における自分の役割や将来の生き方を考える機会の創出に努めるとともに、特別支援学校や学級の校外学習、交流会での利用を積極的に受け入れ、支援を要する子どもの外出の機会の拡充を図ったことから、B評価とされたものでございます。

次に、その下の（５）自主事業の効果的な実施につきましても、自己評価がBとなっております。これは、平日日中の利用の少ない時間帯を活用し、乳幼児向けのリトミックや運動遊びの充実を図り、来館者数の増加につなげたことから、B評価とされたものでございます。

これらは、いずれも主に来館者数の増と、それに向けた取組に対する自己評価でございます。市といたしましてもこの点は十分評価に値すると考えておりますが、来館者数につきましては、４ページ一番上の（１）管理運営による成果・実績の来館者数の項目で評価することとしておりますので、この項目では、モニタリング結果のとおりにC評価としております。

続きまして、一番下の（４）こども未来局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応でございます。昨年度の選定評価委員会でも頂きましたご意見に対する対応や改善の内容を記載しております。

１点目の「来館者数及び新規登録者数について、成果指標に照らした目標の達成に努められたい」につきましては、夏休みのイベントを特集したチラシを学校に配布したほか、公民館での出前講座を通して、交流館の啓発や新規登録の促進に努めました。

２点目の「利用者の安全確保、事故防止及び危機管理に十分配慮するとともに、不審者対応の強化のため、職員研修等の充実を図られたい」につきましては、日常の打合せ等で情報の共有を図るとともに、不審者が来館した際のサインや防犯体制を確認するための研修を実施し、開館時には全職員がトランシーバーを携帯することといたしました。また、大人の知的障害者の方が入ってきてしまうことがあるため、知的障害者の方への対応に関する研修を実施いたしました。

３点目の、「自主事業について、共同事業体としての強みを発揮し、一層の創意工夫に努められたい」につきましては、現在、共同事業体での連絡会議等で話し合いを継続しており、今年度中に共同事業体としての強みを生かした事業を実施する予定でございます。

４点目の「出張講座の開催時期について再検討し、指標に照らした目標の達成に努められたい」につきましては、令和元年度は計画的に日程調整を行いながら実施しており、目標回数も達成しております。

管理運営状況の評価につきましては、以上でございます。

続きまして、６ページをお願いいたします。「６ 利用者ニーズ・満足度等の把握」の（１）指定管理者が行ったアンケート調査でございます。子ども交流館におきましては、例年同様、受付ロビーに常時設置している利用者アンケートに加え、イベント時に年２回の特別アンケートを実施し、計176件のご意見を頂いております。

いくつかご紹介いたしますと、利用者アンケートでは、図書コーナーに関するご意見や、小学生の頃から学習室を利用していた方から、大学に合格した報告と、それに対する感謝の言葉などを頂いております。また、特別アンケートでは、「とても楽しいし、見た目もかわいいから作ってよかった」「親子で一緒に体を動かして楽しかった」など、おおむね良好なご意見を頂いております。プログラムごとの感想につきましても

も、5段階評価で星4つ以上の数がおおむね全体の8～9割以上という高い評価を頂いております。

次に、(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応でございます。

2例ご紹介いたしますと、1点目は、子ども交流館を利用したいという申出をした際に、使用カードがなければ利用できないということしか説明がなかったことに対するご意見につきましては、利用ルール案内の徹底を図り、施設利用者の利便性とサービスの向上に努めることといたしました。

2点目の、プレイルームで職員同士が話をしていたり、プレイルームの状況を職員が見ていなかったことに対するご意見につきましては、職員への指導の徹底を図っていくことといたしております。

続きまして、7ページをご覧ください。最後に、「7 総括」でございます。まず、(1)指定管理者による自己評価でございますが、C評価としております。指定管理者の所見といたしましては、新型コロナウイルスの影響もあり、提案書で示した来館者数と新規登録者数の目標値は下回ったものの、臨時休館前までは来館者数、新規登録者数ともに昨年度を上回っていた、新規登録者数の開拓については、公民館にも出張講座を広げ、館外での新規登録者を昨年度より10人多い27人を獲得することができたなどでございます。

次に、(2)市による評価でございます。お手数ですが、また資料4に行ってくださいまして、裏面をご覧ください。総括評価でございますが、年度評価シートの4ページ、5ページの「5 管理運営状況の評価」の各項目の市の評価における評価の割合により、総合評価の目安とすることとしております。子ども交流館におきましては、評価項目11項目中、C評価が10項目、D評価が1項目でございました。これは総括評価の目安の3番目の「評価項目のDが20%以下、かつ評価項目にEがない」、これに該当いたしますので、C評価とさせていただきます。この評価は、2月、3月の来館者数及び新規登録者数を平成30年度と同数だったと仮定しても変わりません。なお、この方法により算出した評価は、あくまでも目安でございます。総合的に判断して異なる評価をすることや、選定評価委員会のご意見を踏まえて評価を修正することも可能となっております。

恐れ入りますが、また資料2-2の7ページにお戻りください。(2)市による評価でございますが、おおむね計画どおり良好な管理運営が行われている。新型コロナウイルスの影響による臨時休館もあり、指定管理者の設定した数値目標を下回ったものの、来館者数は市設定の数値目標を上回っており、指定管理者の努力がうかがえるなどのことから、C評価としております。

子ども交流館の指定管理者年度評価シートの説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○岩切会長 ありがとうございます。ただいま事務局のご説明がございましたけれども、委員の皆様方、ご質問、ご意見等を頂きたいと思っております。

○鶴見副会長 市の評価についてですけれども、設定した成果指標について、いずれに



についても達成できなかったという観点からすると、Cはやむを得ないかなということだと思います。ただ、皆さんご承知のとおり、今年の春から新型コロナウイルスが発生してしまっていて、一旦収まったかと思えば、今度、夏になってからまた増加している状況です。利用者を増やすことは重要ですが、それ以上に施設において新型コロナウイルスのクラスターの発生を防止するということが、目標として非常に重要なのではないかと考えるところです。

ですので、今年度は利用者の増に必ずしもとらわれずに、新型コロナウイルスに対する安全の配慮を十分に行うということを指定管理者には留意していただきたいと思っております。

以上です。

○岩切会長 ありがとうございます。どうぞ。

○田原委員 資料2-2の4ページのD評価のところは、先ほどの説明の中で、評価委員会がコロナのことを加味するということになればC評価にしてもよろしいということがありましたので、今、先生がおっしゃったように、人数が減ったり何かしているのはコロナの関係があつてこういうふうになっているので、DではなくてCでも私はいいのではないかと考えているのですけれども、いかがでしょうか。新規登録者数のところがD評価になっていますね。ですから、これはやはり少なくともコロナが影響してこういうふうになっているということはもう一目瞭然だと思うので、C評価でもいいのではないかなと私は思っております。

○岩切会長 ほかの委員の皆さんもよろしいですか。同じようなご意見ですか。

○鶴見副会長 はい。

○岩切会長 これはもう致し方ないと思っております。

○田原委員 致し方ないですね。

○岩切会長 そこまで順調に管理運営されていまして、そこまでのところを見ると分かりますものね。

○田原委員 分かります。

○鶴見副会長 コロナの期間を平年並みにすれば評価はCになりますので、そこはCでもいいかと思えます。

○岩切会長 それでは、市のほうの評価ということで、またご検討ください。よろしくお願いたします。

ほかにいかがでございますか。

○小栗委員 今の意見の続きですけれども、コロナ前と後とで大きく環境が変わっています。コロナ前の数値目標を改めてもう1回見直す必要はありませんか。

○岩切会長 事務局のほうで何かそういうことを今後検討されていますか。

○事務局 一応、5年間の累積数という形で目標は設定されております。これはやはり設定時のときの基準でございますので、尊重しなければいけないということはあるのですけれども、状況によりまして、やはり今回のような考慮すべき事案が発生した場合には、その都度、委員会においてご判断していただければというふうに考えていま

す。

- 田原委員 中間もしているわけだから。
- 鶴見副会長 いつ終わるか分からないですからね。すぐ終わるのかどうか。
- 田原委員 これから先だって、次年度だって目標値を達成する可能性は薄いかもしれませんがね。そこら辺は、やっぱり我々選定委員としてもきちっと考慮してあげなくてはいけないのではないかとこのことがありますよね。何が何でも達成しなければいけないということではないと思います。
- 岩切会長 今回の評価自体は昨年度の評価ですけれども、今年度はどうですか、ちなみに参考にですが。
- 事務局 2月29日から5月31日まで休館しておりまして、再開した6月の利用者が1,154人ということで、休館前の2月に比べますと約87%減少しております。また、前年の同月、6月と比べますと、約91%減少しているということで、再開はしましたけれども、なかなか、やはり自粛してしまうようなマインドがまだあるのかなと考えています。
- 田原委員 三密が危険だというのはみんな承知しているので、やっぱり行かないですよ。
- 鶴見副会長 人が多いところには特に避ける傾向があるでしょうからね。
- 田原委員 ですよ。まして子どもでしょう。
- 岩切会長 そうすると、今年度はまたさらに厳しい。
- 田原委員 だから、違う考えをしなくてはいけない可能性がありますよね。
- 岩切会長 また来年度の評価はさらに厳しくなりそうですね。
- 田原委員 数値目標を考えなくては。
- 事務局 その辺りも、今回はあくまでも選定時の基準というものに基づいての評価ということにさせていただきましたけれども、この辺りは今後検討させていただければと思います。
- 岩切会長 そうですね、今後の検討課題にしてください。
- 田原委員 これから長く続く可能性がありますからね。
- 岩切会長 それでは、取りあえず昨年度の内容の検討に入ろうと思いますが、ほかの委員さん、いかがですか。
- 小栗委員 もう1点だけよろしいですか。先ほどご説明のあった資料2-2の3ページの「間接費の配賦基準・算定根拠」について、3ページの一番上の箱の中の「当施設の運営を安定させるため、その比率を8%に引き下げ、計上している」と書かれています。決算書の数字というのは、その状態を正しく示すのが目的であり、安定させるから数値を変えるという話ではなく、11.3%であったら11.3%を機械的に適用して、正しい収支状況を示すというのが普通だと私は思っています。この「安定させるため、その比率を引き下げ、計上している」という文章について市のお考えを教えてください。
- 田原委員 本社の一般管理費もそういうふうにするということになっているでし

よう。

○岩切会長 事務局は分かりますか。

○事務局 この間接費につきまして、いわゆる本社費・一般管理費ということで選定時の提案書に記載されているものなのですが、これはほかの千葉市の指定管理者の中でも計上していないのが大半であるというような状況になっています。また、計上している場合も、配賦基準ですとか算定根拠というのはそれぞれの指定管理者ごとに定めているということで、一定の基準がない中で、こちらのほうの指定管理者につきましては、これまで経常的に赤字であったというところで、その赤字の状況を少しでも改善というか、それは本社費の11.3%相当、本来であればその同水準を適用すべきところではあるのですが、そこが赤字なので、そこをちょっと抑えているということで、8%に下げているというような理解ではいます。

○田原委員 赤字を本社が補填しているという感じですね。

○事務局 そういふことになると思います。

○小栗委員 私は、数字というのは操作するのではなくて、赤字という実態を表せばそれでいいと思っています。その赤字の幅がどう動いているのかという、そこを見るべきであって、パーセントをいじる必要はないと思います。一委員の意見なので、そういう意見があったということでとめておいていただければ、それで十分です。

○事務局 その辺りにつきましても、指定管理者のほうとちょっと話をするなり、本当にあるべき数値というのはどういう形なのかというのを、またいろいろと協議してみたいと思います。

○小栗委員 市の求めているサービスがこのぐらいで、彼らはこのぐらいの費用をかけている。指定管理の中でやっても、これぐらいの赤字が出てしまうというのを明示したいのであれば、きちっとその実態を表すというふうに持っていったほうがいいと思います。

○事務局 分かりました。指定管理者のほうと協議をしていきたいと思います。

○岩切会長 今、小栗委員から財務関係のご指摘があったのですが、財務諸表全体についてはいかがですか。

○小栗委員 テルウェルさんの決算書について、可能であれば、来期以降、主要な経理指標の過去3年間の推移が分かる資料をつけてほしい。経年推移の分かる資料がついていると非常に理解しやすいと思います。

あとは、例えばテルウェルさんについては会社の規模が大きいので、外部の第三者が数字をチェックしているというのが分かる判断資料として会計士の監査報告書のようなものがついていけば、非常によろしいかなと思いました。

以上です。

○岩切会長 ありがとうございます。

ほかの委員の方、いかがですか。どうぞ、松寄委員。

○松寄委員 直接この数値はどうかという話ではないですけども、マナーとかコンプライアンスに関する研修ということで、随分研修をされているのですけれども、資

料2-6の38ページのところに、「事件・事故・不審者対応」というところで随分いろんなことが1年間起きているなど感じました。特に不審者への対応が必要になってくるとか、それからトラブルが2年前に比べるととても多いような気がしました。それに合わせたような研修をしていただけたらいいかなと思います。

先ほどの苦情のところにもありましたけれども、職員によって説明が十分でなかったりというのは、研修等によって補えるものだと思いますので、全職員を対象に幅広い内容の研修を行っているというふうには書かれているのですが、より実態に即したような研修の企画を今後できればしていただければと思います。もし可能であれば、これは今まではそんなにはなかったような気がするのですが、原因というか、そういうものを分析されているのであれば、市としてはどのようにお考えなのか、お聞かせいただければありがたいです。

○岩切会長 何かありますか。

○事務局 今のところは、まだ分析までには至っていないということで、ただ、そういった事案が起こった場合に、それに対応する策は講じてはいるのですが、それはどういう理由があってこういうものが起きているか、そこまでは至っていないことのようなのです。

○松崎委員 もともと丁寧に対応はしてくださっているのですが、対症療法的ではなくて、今後こういうときにはどうなのかみたいなマニュアルを作成するとか、そういう計画的な研修を入れていくようにされると、次に起こったときに、経験論ではなくて、この場合は警察とか、この場合はこういうふうに指導を頂くところが必要と。今年度は違うかもしれないけれども、人数も増えていって、トラブルも多様化されているし、問題も多岐にわたっているの、どこと連携していくのかというようなことも含めて、体系化されたほうがいいかなと思います。ばらばらと書かれているので、もうちょっと。

○岩切会長 分かりやすくですね。

○田原委員 問題と対応が、探すのが大変ですよ。

○岩切会長 私も毎年見てきていて、むしろ対応が大変だなというような事案は減っているようにも思うんです。ただ、件数は先生おっしゃるとおり結構ありますので。

○松崎委員 すごく大きいことはないと思うけれども。

○岩切会長 大きいことはなくなりましたね。

○松崎委員 はい。やっぱり小さいこととか、中だけで対応できないことが多い気がします。

○岩切会長 そうですね。私が見た限りでは、けがが多いですね。骨折とかが多いので。

○田原委員 骨折が2人。それで、そのときに保険はどう対応しているのか。これは保険とかは掛けていないですね、遊びに来るだけだから。

○事務局 保険は、施設のほうで傷害保険に入っております。

○田原委員 入っていますか。1か月とか、そういうのが出ていますよね。2人ぐらい骨折とかがありましたよね。

- 事務局 けがをされた方につきましては、保険が適用されることをご案内して、その手続を行っていただいています。
- 岩切会長 この委員会でも安全については毎年お願いをしてくれているところですが、ならないとは思いますが、研修等でさらに万全の対策をとっていただければいいなと思いますね。
- ほかの委員さんはいかがですか。
- 田原委員 おしっこを漏らした、臭いがくさくてどうのこうのというのがあったじゃないですか。それはおむつか何かを置きっ放しにするんですか。プレイルームのところでおしっこの臭いがとてもすると。ホームレスがいるんじゃないかと思うぐらいの臭いがするとかというのが無記名でありますね。ですから、そのためにはきちっと掃除をして、きちっとしていますよという回答がここにあるんですが、これって何でしょうね。臭くなる原因は。
- 事務局 プレイルームは、乳幼児から小学生まで利用されるのですが、そこで何人かがやっぱりお漏らしをしてしまうということが、たびたびあるそうです。もちろんその際には、拭き取りと消毒といったものをして対応しております、当然このアンケートを頂いた後も、私ども職員のほうも現地確認をさせていただいたのですが、特段そういう気になる臭いはなかったなというのが正直な感想でございます、そういったことが起きた際には適宜対応しているというところでございます。
- 田原委員 初めて利用したときに、ポスターに「お漏らしをしている子がいる」と書かれているのを気にしていらっしゃったから、この方は余計に臭いに敏感になっちゃったのかな。
- 事務局 お漏らしして、「ちょっとお漏らししちゃったので」と係の者に言っていただければ、その場で対応はできるのですけれども、中には言いづらいのか、そのまま出ていかれてしまい、そのものが残ってしまっていて臭いがするというのもあったので、そこは注意深く係員の人には見てもらおうということをお願いをしています。
- 田原委員 臭いに敏感な方なんでしょうね。
- 岩切会長 大体よろしいですか。それでは、委員会としての意見を整理しなければいけないのですけれども、この報告を見ますと、30年度に指摘した点については、かなり対応がしっかりできていますね。市の評価がC評価というのは、おおむね達成できているという評価ですので、おおむね良好な管理運営が行われているということで大丈夫だと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

- 岩切会長 また、来館者数とか新規登録者数を毎年問題にするのですが、先ほどからありましたように、新型コロナウイルスの特殊な事情がありますので、全く同じようには指摘できないのですが、ただ、コロナの前も新規登録者は減っております。これはコロナに関係ないと思われまますので、この来館者数、特に新規登録者については、

利用者数の拡大を図るために達成は厳しいとは思いますが、数値目標の達成をあくまでも念頭に置いて頑張っていたいただきたいということで、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 それから、先ほどもありましたように、感染症対策があるのですけれども、利用者の安全・安心ですね。この点で管理運営体制を一層充実させていただきたい。また、それに伴う研修も充実させていただきたいというようなことでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 それから、指定管理者については、いつも財務のほうで指摘をしてきているわけです。今回も大体同じようなところかと思いますが、小栗委員のほうからもご指摘がありました。どういう形の文言にするかは別として、財務状況については、収支状況の透明性について「一般管理費など」ということで少し具体的に書きますか。

○小栗委員 実態を適切に表すように、「収支の実態を適正に表すよう努力されたい」と。

○岩切会長 「収支の実態を適正に」。

○小栗委員 「適正に表すように努力されたい」とか。

○岩切会長 「努められたい」とかですね。

○小栗委員 実態を反映した数値にしてほしいという意味です。

○岩切会長 なるほど。「収支の実態を適正に表すように改善に努められたい」ということですね。では、そういう形で意見として述べさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 少し文言のあやふやなところはありますが、おおむね理解いただけたいと思います。後程、文言の整理をさせていただきます。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 これに何か修正あるいは補足として何かありますでしょうか。大丈夫ですか。それでは、そういう形で、委員会としての意見を整理させていただきたいと思えます。交流館については以上でよろしいでしょうか。

それでは、続いて、「千葉市子育て支援館」の年度評価ということで進みたいと思えます。事務局よりご説明をお願いします。

○柘見幼保支援課長 幼保支援課の柘見でございます。よろしく申し上げます。座って

説明させていただきます。

それでは、子育て支援館の年度評価を説明いたします。

配付資料の3-2、指定管理者年度評価シートをご覧ください。

施設名称は「千葉市子育て支援館」、条例上の設置目的は「乳幼児の健やかな育成を図るとともに、子育て家庭を支援するため」としております。

2の「指定管理者の基本情報」でございますが、指定管理者は、「公益社団法人 千葉市民間保育園協議会」、指定期間は平成29年4月1日から令和4年3月31日まで、今回は3期目の評価となります。

次に、3の「管理運営の成果・実績」でございますが、その前にちょっとコロナの影響についてでございますが、こちらの子育て支援館につきましても2月29日から休館をしております、3月は丸々利用者なしとなっております。再開しましたのが6月1日からとなっております。ちなみに、6月1日から7月中旬まで1か月半、昨年同時期までの利用者と比較しますと27.8%の利用となっております。再開に際しましては、利用人数を制限する、それから利用時間をある程度制限することで、感染症対策を取りながら運営をしているという状況でございます。

それでは、資料のほうへ戻ります。「管理運営の成果・実績」の(1)成果指標に係る数値目標の達成状況でございますが、1つ目、施設利用者数につきましても、数値目標7万8,000人に対しまして、令和元年度は6万949人で、達成率78%ということになっております。先ほど申し上げた新型コロナウイルスの影響で、3月の利用者数がゼロ、それから2月につきましても昨年同時期に比べて700人ほど利用者が減ったということが影響しております。

次の利用者アンケートにおける利用者満足度につきましても、数値目標の75%を超える78.17%と、高い水準となっております。

次のファミリー・サポート・センター会員数につきましても、数値目標が250人増に対しまして、昨年度は26人減となっております。これにつきましては要因が2つございます。登録はして活動していない提供会員がいるということで、昨年12月に継続意思を確認するためのアンケートを実施いたしました。それを機に退会した会員が74名いたということが一つ、それから新型コロナウイルスの影響で依頼会員の新規登録者数が減少しまして、特に3月、前年度は84人登録がありましたところ、今年度は44人とどまったということが、全体として会員数減少の原因と考えております。

次に、その他の利用状況を示す指標の相談件数につきましても、右の参考の2段目をご覧くださいと、昨年度の1,175件より1,409件多い2,584件となっております。これにつきましては昨年度の実績が、相談件数のカウント方法が職員間で周知徹底できなかったことによって、平成30年度の数字が少なくなっていたということがございます。ちなみに、平成29年度、一昨年が2,329件ですので、一昨年と比較しても増加ということになっております。

次のファミリー・サポート・センター事業の活動件数でございますが、昨年度の

8,072件より114件少ない7,958件となっております。これにつきましても新型コロナウイルスの影響で、3月は昨年度と比べまして166件の減となっております。3月を昨年度と同数と考えますと、昨年よりは増加するぐらいの数と想定しております。

2ページをお開きいただきたいと思います。4の「収支状況」でございます。

まず(1)の必須業務の収支状況でございますが、アの収入は一番下の合計のところ、6,488万6,000円で、計画より若干少ない数字となっております。

イの支出につきましては、合計欄ですが、計画額よりも101万7,000円多い6,596万3,000円となっております。計画額よりも多くなった理由は、人件費の欄をご覧いただきたいと思います。こちら、計画よりも実績のほうが166万1,000円増えておりまして、これにつきましては、複数人の退職や病気の休みなどに備えまして、配置人員に不足が生じることがないように当初計画よりも厚めに積極的に雇用をした結果、トータルでは人件費が増えたというようなことでございます。

3ページをご覧ください。次に(2)の自主事業収支状況でございますが、自主事業の収入の決算額は12万3,000円、支出が13万1,000円となっております。

次に、(3)の収支状況ですが、収支は108万5,000円の赤字となっております。これにつきましては、必須業務のところマイナス107万7,000円の赤字となっております。先ほどご説明しました人件費が当初想定していた金額を上回ったことが原因となっております。ただ、こちらについては人件費が当初の計画よりかかりましたが、子育て支援館、ファミリー・サポート・センターの職員配置につきましては、年間を通じて人員、人数不足が生じないように配置ができたということで、おおむね適正に運営ができたと考えております。

続きまして、5の「管理運営状況の評価」でございますが、(1)の管理運営による成果・実績につきましては、一番上の施設利用者数がD評価となっております。これにつきましては先ほどもご説明しましたが、休館をしていたことによりまして3月の利用者がゼロだったこと、それから2月の利用者も昨年に比べて減少したということがございます。昨年並みの利用があったと考えますと達成率が87%ほど、C評価となるという結果になっております。

次に、利用者アンケートにおける利用者満足度につきましては、達成率が104%となりC評価としております。

3つ目のファミリー・サポート・センター会員数につきましては、毎年250人の会員増の目標を適用しますと、実績が26人減で、目標が達成できていないということでE評価としております。先ほどもご説明したとおり、継続意思を確認したアンケートと、それから新型コロナウイルスの影響、それを考慮しますと88人ぐらい増になったかなと思いますが、それでも達成率は37%となるため、E評価にとどまると考えております。

4ページをお開きください。

(2)市の施設管理経費縮減への寄与につきましては、市の指定管理料支出の削減を評価項目としております。市の指定管理料の支出実績と選定時の提案額を比べます



と、削減率は0.2%となることからC評価としております。

次に、(3)の管理運営の履行状況につきましては、モニタリングレポートの結果に基づきまして、全てC評価となっております。このうち末尾の市内業者の育成につきましては、昨年度はD評価でしたが、今年は改善されて全てC評価となっております。

続きまして、(4)のこども未来局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応についてですが、昨年度頂きました意見の内容欄、「施設利用者数について、成果目標に照らした目標の達成に努められたい」というご意見に対しましては、市内のサークル等に出向いてイベントを実施する出張広場、これのPR効果が高いということから、出張の回数を年3回程度から年8回に増やして、施設利用についてアピールしております。

また、「相談業務の重要性を再認識し、職員間の引継ぎ等に遺漏のないよう努められたい」ということにつきましては、昨年度、職員間の周知徹底ができていなかったことについて、相談業務に限らず引き継ぎに関するマニュアルを作成しまして、相談業務の集計についても、基準を設けて同じように集計ができるようにしております。

次に、「利用者の満足度は非常に高い水準にあると認識しているが、前年度と比較し、低下傾向にあるため、引き続き利用者満足度の向上に努められたい」、こちらのご意見については、相談を待つだけではなく、利用者に対して職員から声かけをして、相談しやすい雰囲気づくりに努めていったところでございます。

また、最後、ファミリー・サポート・センター事業について、「今後はチラシの配布をより効果的に実施するなど、引き続き提供会員の増加に向けた取り組みを進められたい」という意見に対しましては、小中学校を通じての提供会員募集のチラシ配布について活動マッチング率の低い蘇我や幕張で重点的に今後実施し、提供会員、活動件数の増加に努めてまいりたいということでございます。

続きまして、6ページをお開きください。「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてでございます。指定管理者が5つの方法によってアンケートを実施しております。1つ目としまして、初めて来館する方向けの、はじめましてアンケート。2つ目が、リピーターの方向けの支援館アンケート。3つ目として、ひろば・イベントに参加した方向けアンケート。4つ目として、館内に設置したご意見ポストに投函していただくもの。5つ目として、利用者支援事業でのアンケートでございますが、合計で1,935件のアンケートを回収しております。

結果、内容につきまして簡単にご説明しますと、1の「はじめましてアンケート」では、利用目的で一番多かったものが「親子で遊ぶため」というもので、65.2%と最も多い内容となっております。

また、2の「支援館アンケート」でございますが、(3)のスタッフの対応等につきましては、「よい」と「大変よい」を合わせた回答が、3つの問いに対していずれも90%もしくは80%以上と、引き続き高い水準となっております。

また、(4)目的に対する満足度、6つの項目がパーセントを記載しておりますが、

こちらは6つのうち5つの項目で昨年度より満足度、評価、数字が上がっている状況でございます。

3の「ひろば・イベント等のリアクション」でございますが、なごみひろば、わいわいひろばの参加について、初めての方が40%ほど、2回から4回の方が42%となっております。イベントについては「よかった」という方が96%と高い評価を頂いております。

また、ご意見ポストにつきましては、13件の意見が寄せられまして、対応したことについては、館内に告知を掲示しまして利用者に具体的な周知をするようにしております。

また、(2)の市、それから指定管理者に寄せられた主な意見・苦情の対応につきましては、ご覧のとおりとなっております。

続きまして、7ページをご覧ください。最後に「総括」でございます。

(1) 指定管理者による自己評価ですが、C評価となっております。ホームページの強化、SNSの活用を含め、効果的な周知を幅広く行い、情報発信の充実を図っている、また、子育てに不安のある保護者からの相談業務を手厚く、より専門的に行うことによりまして、感染予防対策として休館していた時期がございましたが、相談件数は増加傾向となっております。また、視察や研修会に参加して関係機関との連携を深めて様々な事業に積極的に取り組んだことによりまして、千葉市の子育て支援施設の拠点として十分職責を果たしているとの評価となっております。

次に、(2)の市による評価でございますが、3ページから5ページまでの「管理運営状況の評価」における各項目は、E評価が1つ、D評価が1つ、その他は全てC評価となりましたが、利用者数につきましては新型コロナウイルス感染症を考慮した場合、C評価相当と考えておりますので、E評価が1つ、その他全てがC評価と考えた場合、総括評価の基準では評価項目のDが20%以下かつ評価項目にEがないということがCの評価となるということで、総括評価の基準Dは評価項目20%以上がDまたはEとなっております。今回はいずれも当てはまらず、CとDの間となりますが、E評価となったファミサポの会員数についても、毎年250人という高い目標の中で、新型コロナウイルス感染症などを考慮した場合、増加を見込めたということ、それを含めると5,878人となって指定管理者の提案時の努力目標を上回っていることから、市の評価はCとさせていただきます。

次に「所見」でございます。指定管理者として引き続き指定された第3期の3年目でございますが、来館者数は先ほどご説明したとおり目標を下回りましたが、新型コロナウイルスの影響、そうしたものを考慮し、また就学前児童数の減、保育所入所児童数の増という状況を鑑みますと、昨年度2月、3月の利用者数を考慮した場合、目標値の87%程度、C評価となるということで少なからず評価できると考えております。今後も引き続き市と指定管理者でさらなる利用者の増につながる施策を検討し、速やかに実施していきたいと考えております。

また、利用者アンケートの結果からは、昨年より数値が上がるなど、引き続き高い

満足度を得ております。この点については大変評価をしております。また、昨年度に引き続きまして、地域子育て支援拠点の基幹施設として他の拠点施設を取りまとめ、翌月に実施する講座の情報収集、ホームページ、Twitter での情報発信のほか、定期的な連絡会議、研修会を開催するなど、他の施設職員に対して適切なアドバイスを行う基幹施設としての役割を十分に果たしていると考えております。

また、新型コロナウイルスの影響によって利用者数は減少しましたが、利用者満足度という数値については上昇しており、良好な管理ができていると考えております。

私からの説明は以上でございます。

○岩切会長 どうもありがとうございました。

ただいま事務局のほうからご説明がございました。委員の皆さんのほうからご質問等ありましたらお願いいたします。どうぞ。

○鶴見副会長 こちらについても同じような意見になってしまうのですが、成果指標との達成率から考えると市の評価によるCというところはやむを得ない数字であろうと思います。市の評価がDとかEとかになる部分についても、新型コロナウイルスの影響を考えてもいいのではないかとこのころはあると思います。

今年度についてはさらに厳しい数字になることが容易に予想できますので、指標の達成も重要ではあるのですが、それ以上に新型コロナウイルスによるクラスターの発生等の防止、利用者の安全の確保など、そういうことを特に重点的に、今年度についてはコロナが収まるまでの間は取り組んでいただきたいと思います。特に小さい子どもが多いですので、そういうふうに思います。

○岩切会長 ありがとうございます。これも同じですね。

○鶴見副会長 同じですね。

○岩切会長 ほかに委員の皆さん、ございますか。

○小栗委員 資料3-7の1ページ以降になりますが、今回、この子育て支援館特別会計というのも正味財産がマイナスになっていました。1ページ目の貸借対照表のⅢの正味財産の部の2の一般正味財産のところ、前年度に比べてマイナスになっています。

では、なぜマイナスになったのかという理由を推測すると、先ほどお話のあったとおり、1ページ目、例えば子育て支援館の事業費の人員費を見ていただくと、非常勤職員の給与が200万円前年より増えています。これがかなり大きな理由になっています。次のページのファミリー・サポート・センター事業の常勤職員給与も約270万円増えています。

私が気になったのは、人員費を全部足し上げていくと、5,000万円を超えます。収入が6,500万円、人員費が5,000万円ということでは収入に対する比率は何%ぐらいですか。

資料3-7に正味財産増減計算書というのがあると思いますけれども、ここの真ん中の(2)の経常費用の子育て支援事業費の人員費というのがまず2,980万円ありますね。

○**栞見幼保支援課長** はい。

○**小栗委員** 下のほうにいきますと、利用者支援事業の人件費というのが930万円あります。次のページを見ていただいて、ファミリー・サポート事業費の人件費というのが1,380万円。大体人件費で、その下のボランティア費というのも本当は入るのかもしれないですけども、これを足し上げると5,000万円を超えると思います。

○**栞見幼保支援課長** 約5,300万円。

○**小栗委員** それを上での収入の6,500万円で割るとどのぐらいになりますか。

○**栞見幼保支援課長** 81%。

○**小栗委員** 81%です。一般的に60から多くても70以下に抑えないと厳しいと思います。この特別会計というのは、そういう現状で今運営されているということをまず認識し、その上でなぜこういう状況になっているのか、そこをきちっと把握することがまず重要と思います。

○**栞見幼保支援課長** 人件費が今年、特に計画より多くなったということなのですが、一昨年、昨年と、途中、自己都合などで職員が退職するもしくは病休に入ってしまうというようなことがございまして、一昨年は6人で、昨年も4人ぐらい、急にということがございました。一昨年6人辞めたときに、特に今、やはりこの子育て関係の人の確保は、募集してもなかなかすぐに手が挙がらないということが非常に苦慮しているところだと聞いております。突然自己都合でお辞めになる場合などもありますので、そこで、あらかじめ採用、募集をちょっと長めに採って、採用できるときには、ちょっと人が厚めになるのですけれども、そうした病休とか急な退職などに備えて人を昨年度配置したというふう聞いています。それでちょっと人件費がかさんでしまった部分が昨年度についてはあろうかと考えています。

○**岩切会長** いかがですか。よろしいですか。

○**小栗委員** 承知致しました。

○**田原委員** 負債のところ、流動負債の未払金が1,100万円ありますね。毎年しているものになる。これは借入じゃないですか。

○**岩切会長** 今までこの会計について特段指摘したことはなかったのですが、どんなことを。

○**小栗委員** まず、人件費の管理をより注意して行っていただきたいと思います。

○**岩切会長** 債務超過にというようなことではなくて。

○**田原委員** 経費が出ないじゃないですか。

○**小栗委員** そういう見方をしております。

○**田原委員** 人事のところも含めてでしょう。

○**岩切会長** そうしますと、この点の改善を求めていますか。

○**小栗委員** 人件費の比率が高いので、より注意してくださいという見解です。

○**田原委員** 我々が踏み込んでいいと。

担当職員のところ、真っ黒になったところがあるじゃないですか。20、この人数は入れるわけですか。事業報告の次のページ、3-6の次のページ、黒くなっている、

国がよく出すじゃないですか。

○事務局 個人情報なので。

○田原委員 これは個人情報が出ちゃいけないからということで、こうなっているのですか。

○事務局 そうです。氏名、住所。

○田原委員 そういふのは外したということですね。

○事務局 はい。

○田原委員 そうすると、何人いますか。

○岩切会長 その債務超過の要因になっている人件費等について、「改善」ではないですか。

○松崎委員 仕事の内容ともう1回合わせて、例えばファミサポだったら特に今回減っているわけなので、「事業内容と人員配置の関連をもう1回吟味することをしていただきたい」というぐらいですね。

○小栗委員 そこまで踏み込めるのだったらすごくいいですね。

○岩切会長 あまり細かくすると。

○田原委員 そうですね。

○小栗委員 推測で書いてもいけないですし。

○田原委員 これだけの人数がいなければ経営ができないというのは本当なんですね。これだけ払っている。

○小栗委員 人件費比率が高いということだけははっきり言えますよね。

○岩切会長 はい。

○田原委員 給料の話をするということ。

○小栗委員 近年、相当人件費が上がっています。

○田原委員 だから、お金を高く出さないとパートの人でも来ないという現状がありますからね。

○栞見幼保支援課長 そうです。一般的に保育施設、特に保育所は人材不足で、人争奪戦になっていますので。なおかつ各自治体、国制度なども活用して、賃金といひますか処遇のほうを上げてきています。処遇が上がっているというような言い方もあるのですが、前に比べて人件費のほうはやっぱりかかるようになってきているという状況は、保育施設全体でございます。

○岩切会長 では、文言は後ほど整理させていただいて、要するに、人件費の比率が高く、債務超過の原因になっているので注意してほしいと、趣旨はそうですね。

○小栗委員 特別会計以外に本体があります。千葉市民間保育園協議会の本体部分、一般会計のほうは利益が出ています。通常は、特別会計で稼いで利益を一般会計に繰り入れることがあるべき姿と思われます。

○田原委員 だから、マイナスの部分を一一般会計から繰り入れなければいけない。

○小栗委員 特別会計の人件費負担が若干重いような気がします。今後もより財政状態に留意して経営を行っていただきたいと思ひます。

○岩切会長 人件費の比率が高いので、今後の財政状況に留意してほしいということですね。分かりました。では、それを意見として後ほど。

ほかに委員の皆さん、この点以外にございますか。

この相談件数のことは、前年度にトラブルがあって、それで整合性のある数字が出せなくなってしまったんですね。これを改善されたということで、それでもぐっと相談件数は上がっているし、非常にいい傾向ですよ。もともとこの対応がまずかったわけではなく、その処理が悪かっただけです。これもかなり大幅に増えていますので、この辺りは評価してあげてもいいのではないですか。

○田原委員 そうですね。

○岩切会長 もともと利用者の満足度が非常に高いところなので、満足度が高くて、相談件数が大幅に増加しているということは、評価できるということをお願いしたいですね。

○田原委員 そうですね。

○小栗委員 恐らく一般的にはきちっと人を配置してサービスをしているから、満足度が高いというふうになっていると思われま。

○岩切会長 そういうことですね。

○小栗委員 逆に一般的に人を減らすと、今のサービスが下がってきますので、今度は不満がまた出てくる可能性があります。

○田原委員 あまり我々が指摘してしまうと減らすかもしれない。

○小栗委員 トレードオフです。一般的にお金をかければかけるほど人がいて、きちんとしたサービスができます。

○岩切会長 財務状況を見るとね。

○田原委員 そこが充足していないと満足度がいきませんから。相談件数も、相談に乗ってくれる人がいなかったらね。

ちゃんとしているということですよ。ただ、お金がちょっとかかり過ぎる。

○岩切会長 私は、ファミリー・サポート事業についてはいろいろと課題があるように思います。昨年度までも、市のほうの考え方については、かなり聞いてきました。市のほうの考え方もあるのだけれども、指定管理者としてどういう課題意識を持っているかということ、もう少し出してほしいなと思うんです。

だから、少子化等で需要が減っているというのはあるかと思いますが需要は決して少なくない事業ではないかと思うんですね。ますます需要が出てくる事業ではないかなと思うので、指定管理者ももうちょっと頑張ってもらいたいなと思って来たんです。取り組んでいただいているのでしようけれども。

会員の名簿を整理されたようですね。実態に合わせて。だから、それで数字的にはむしろちゃんとやっているから下がっていくのだと思いますけれども、取組自体をもう少し指定管理者に主体的に取り組んでもらいたいと思います。

委員の皆さん、そういうことでよろしいですか。

それでは、特に従来から頑張っている施設でありますので、頑張っているからこそいろいろな問題が出てくるようにも思います。管理運営についてはおおむね良好という

ことで、今年もそういう形の意見としていいですか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 それから、施設の利用者数ですね。新型コロナの影響で減少傾向にあるというのはありますけれども、そうでなくても若干減少傾向にありますよね。新型コロナの影響はあるのですが、やはり成果指標に照らして、とにかく利用者数、来館者数の増に努めてもらいたいというのは、ぜひ申し上げたいと思います。

それから、先ほど言いましたけれども、利用者数、利用者の満足度が非常に高く、相談件数もかなり大幅に増加していますので、この辺りは委員会としても評価をしたいと思います。よろしいですね。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 それから、ファミリー・サポートは、もう少し指定管理者としても課題を明確にして取り組んでほしい、頑張ってもらいたいということがあります。

それから、これは鶴見委員のほうから出ました。新型コロナウイルスの感染症対策がありますので、クラスター等の発生防止のために安全対策に努めてほしいということですね。当然ですが、新型コロナの研修は重要だと思います。

それから、財務状況については、これまで特段問題がないとしてきたのですが、今回は人件費の割合が高いということがありますので、今後の財務状況に留意していただきたいということで意見を申し上げていいですか。

(「異議なし」の声あり)

○岩切会長 改めて文言の整理はさせていただきますが、以上を意見としたいと思います。ほかに委員の皆さんからありますか。よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、内容を再度整理して、まとめましたら委員の皆さんにお知らせして、了承を得たいと思います。よろしく願いいたします。

以上でよろしいでしょうか。

それでは、指定管理者の行った年度評価についての審議は以上で終わりにしたいと思います。今回の審議について、委員の皆様、ほかに何かございますか。大丈夫ですか。

ありがとうございます。それでは、議題(1)のほうは以上で終わらして、(2)の「今後の予定について」ということで、事務局より説明をお願いいたします。

○宮葉こども企画課長 こども企画課でございます。

それでは、今後の予定につきましてご説明させていただきます。本日、委員の皆様に取りまとめでいただきましたご意見等につきまして、岩切会長から市長宛てに、委

員会の意見として答申をいただくこととなります。この委員会の答申を受けまして、事務局において委員会のご意見を整理し、指定管理者評価シートに記載した上、9月上旬頃に市のホームページに掲載し公表するとともに、指定管理者へ通知いたします。

また、当委員会の会議録につきましても、同様に市ホームページにて公表することとなります。公表の時期等が決まり次第、委員の皆様方にご報告させていただきます。

なお、今回の委員会の会議録につきまして、後日委員の皆様にご確認をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○**岩切会長** ありがとうございます。

感染症がありますのでできるだけ時間をかけないようにと思って来たのですが、長くなりました。ご協力ありがとうございました。

それでは、本日の委員会は終了とさせていただきます。事務局のほうにお返ししたいと思います。

○**事務局** それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了させていただきます。活発かつ慎重なご審議を賜りまして、誠にありがとうございました。